

確率分布に関するExcelの関数

推定・検定で利用できる、確率分布に関するExcelの関数を紹介します。

正規分布

NORMDIST

NORMDIST (正規分布において任意のxに対する累積確率pを返す)

- 書式 : NORMDIST(x, 平均, 標準偏差, 定数)
 - 引数 : x : 横軸 x の値
 - 引数 : 平均 : データの平均
 - 引数 : 標準偏差 : データの標準偏差
 - 引数 : 定数 : 「TRUE」なら累積確率、「FALSE」なら確率分布関数の値を返す
- 例: 平均が1、標準偏差が2の正規分布でxが0のときの累積確率を計算する

```
=NORMDIST(0, 1, 2, TRUE)
```

NORMINV

NORMINV (正規分布において累積確率pに対するxの値を返す)

- 書式 : NORMINV(p, 平均, 標準偏差)
 - 引数 : p : 累積確率
 - 引数 : 平均 : データの平均
 - 引数 : 標準偏差 : データの標準偏差
- 例: 平均が1、標準偏差が2の正規分布で累積確率が0.975 (97.5%) のときのxの値を計算する

```
=NORMINV(0.975, 1, 2)
```

標準正規分布

NORMSDIST

NORMSDIST (標準正規分布において任意のzに対する累積確率pを返す)

- 書式 : NORMSDIST(z)
 - 引数 : z : 横軸 z の値
- 例: 標準正規分布でzが1.95のときの累積確率を計算する

```
=NORMSDIST(1.95)
```

NORMSINV

NORMSINV (標準正規分布において累積確率pに対するzの値を返す)

- 書式 : NORMSINV(p)
 - 引数 : p : 累積確率
- 例 : 累積確率が0.95 (95%) のときのzの値を計算する

```
=NORMINV(0.95)
```

t分布

TDIST

TDIST (t分布において任意のt値に対する上側確率pを返す)

- 書式 : TDIST(t, f, 定数)
 - 引数 : t : 横軸 t の値
 - 引数 : f : 自由度
 - 引数 : 定数 : 「1」ならpの値、「2」ならpの2倍の値を返す
- 例 : 自由度が4のt分布でtが4.6のときの上側確率を計算する

```
=TDIST(4.6, 4, 1)
```

TINV

TINV (t分布において両側確率pに対するt値を返す)

- 書式 : TINV(p, f)
 - 引数 : p : 両側確率 (上側確率を求める場合はpを2倍する)
 - 引数 : f : 自由度
- 例 : 自由度が4のt分布で両側確率が0.05 (5%) のときのtの値を計算する

```
=TINV(0.05, 4)
```

カイ2乗分布

CHIDIST

CHIDIST (カイ2乗分布において任意のカイ2乗値 xに対する上側確率pを返す)

- 書式 : CHIDIST(x, f)
 - 引数 : x : カイ2乗値 x の値
 - 引数 : f : 自由度
- 例 : 自由度が10のカイ2乗分布でカイ2乗値が18のときの上側確率を計算する

```
=CHIDIST(18, 10)
```

CHIINV (カイ2乗分布において上側確率pに対するカイ2乗値 x を返す)

- 書式 : CHIINV(p, f)
 - 引数 : p : 上側確率
 - 引数 : f : 自由度
- 例 : 自由度が10のカイ2乗分布で上側確率が0.05 (5%) のときのカイ2乗値の値を計算する

```
=CHI INV(0.05, 10)
```

F分布

FDIST**FDIST (F分布において任意の自由度とF値に対する上側確率pを返す)**

- 書式 : FDIST(F, f1, f2)
 - 引数 : F : F値
 - 引数 : f1 : 第1自由度
 - 引数 : f2 : 第2自由度
- 例 : 第1自由度が3、第2自由度が4のF分布でF値が18のときの上側確率を計算する

```
=FDIST(18, 3, 4)
```

FINV**FINV (F分布において任意の自由度と上側確率pに対するF値を返す)**

- 書式 : CHIINV(p, f1, f2)
 - 引数 : p : 上側確率
 - 引数 : f1 : 第1自由度
 - 引数 : f2 : 第2自由度
- 例 : 第1自由度が3、第2自由度が4のF分布で上側確率が0.05 (5%) のときのカイ2乗値の値を計算する

```
=FINV(0.05, 3, 4)
```